

第 75 回大腸癌研究会 化学療法プロジェクト議事録

開催日 2011 年 7 月 7 日 (木)

開催場所 都市センターホテル (東京)

下記の議題について説明し、今後の研究の報告について議論を行った。

A) 高齢者化学療法の現状調査の検討；これから各施設へ調査票をお送りする。

B) 日常診療における説明文書の作成；改訂書式でモデル例を作成し、各委員で分担して原案を作成する。

パニツムマブ併用療法を追加する。

C) 化学療法データベース作成；各施設で自科の DB を作成しているが、予後調査も難しくなっており、また外科では他にもいくつかの DB を入力しなければ行けない現状では、全国展開するのは困難である。よってテーマ毎に調査する方が現実的である。

上記の、A) B) の 2 つのプロジェクトが終了したら、化学療法プロジェクトは一旦終了する。

今後は、より具体的なテーマでプロジェクトを提案していくこととする。

案 1) 標準治療後の予後調査：初回化学療法開始日、標準治療最終投与日、死亡日を調べて、標準治療終了後の予後を知ることにより、今後の治療開発の参考になりうるだろう。

案 2) 切除不能の liver limited disease で、化学療法で conversion surgery できた症例をレトロスペクティブに解析する。ただし、すでに複数の P2 が進行中であるので、症例が重複するために、それらの最終結果がでるまでは調査はできない。

案 3) ガイドライン改訂後の化学療法の実態調査：一次治療、二次治療、三次治療で、実際にどのような治療が行われているかを調査する。

案 4) ステージ 2 高危険度群についての解析

これらにつき、研究コンセプトをメンバーで議論して作成し、個々のプロジェクトとして行っていく

以上、A)、B) を速やかに推進することを確認した。

文責 島田安博